

第94回 まちづくり塾記録

「じょうずな絵本の読み方・聞かせ方」

浜松音声表現活動研究会「読みかたり」の皆さん

平成22年3月13日(土)

14:00～15:30

会の活動について

定例の勉強会は月2回。第一土曜日は9:30～11:00、第三水曜日18:30～20:00。

勉強の内容は、アクセント・ナレーション・活舌・長音の練習をはじめ読み方の実践を行っている。

会員22名。会費500円。

指導者は城 慶樹。出版文化振興財団(JPIC)の読者アドバイザー、「読み語りガイドブック」著者。

ボランティア活動場所

浜松医大附属病院・・・月1回、第2水曜日14:30～15:00(30分間)。

入院病棟のプレイルームで読み聞かせ絵本、紙しばいなどを行っている。

遠州病院・・・月4回、毎週金曜日13:30～。

ナースステーションでその日に読み聞かせをして欲しい子を聞き、ベッドにいる子に数冊の絵本から選んでもらい読んでいます。

光明学園・・・神ヶ谷町にある知的障がい者更生施設。月1回、第三木曜日13:30～(30分間)。

30～60代の大人が入所しているため、絵本を読む前に季節の歌や学園で練習している歌を歌い、口の運動をしてから絵本に入っている。聞いている人が飽きないように、メインが昔話なら紙しばいは創作物、2冊目の絵本は短めの自然のものや動物が出てくるものなどジャンルを変えて内容に工夫を凝らしている。

南有玉ケアセンター・・・月1回、曜日は決まっていない。

内容は光明学園とほぼ同じ。高齢者なので必ず一冊は昔話、民話を取り入れ4冊ほど読んでいます。

本の王国・・・雄踏店は第三土曜日15:00～、西店は第四土曜日15:00～(30分間)。

会の指導者、城 慶樹が主となり、効果音を取り入れながら情感たっぷりに絵本を読んでいる。絵本、しかけ絵本、大型絵本、紙しばいを行っている。

じょうずに読み聞かせをする方法、好感を持たれる話し方

・話しをするときも絵本を読むときも意識をして話す、読む。

・明るく通る声、はっきりとした言葉、聞き取りやすい声

・絵本の場合は、楽しいことは早めのテンポで、悲しいことは少しトーンを落としてゆっくり話す。大きなものを表現する時は大きな声で、小さなものを表現する時は小さな声で、聞いている側が想像しやすくする。また絵本を読むときは必ず1～2回下読みをすると文章や言葉を頭の中で理解してから読むことができ、聞き手に伝わりやすい。

絵本の紹介

週末に疲れたお父さんにお勧め絵本

「赤いおおかみ」「12の贈り物」「はるにれ」「アンジュール ある犬の物語」

若い女性、お母さんにお勧め絵本

「イルカの星」「ぼくのともだちおつきさま」「わたしのきもちをきいて 家出」「ずーっとずーっとだいすきだよ」

お子様と一緒に楽しむ絵本

「とんとんとめてくださいな」「こすずめのぼうけん」「かわいそうなぞう」「ぐるんぱのようちえん」「ぞうのこどもがみたゆめ」「パパ、お月さまとって」「にじいろのさかな しましまをたすける」「すてきな三にんぐみ」「3 びきのかわいいおかみ」「きょだいなきょだいな」「くまのコールテンくん」

息づかいを声に出して聞かせる絵本

「こぞうのパウのだびだち」「おじいちゃんわすれないよ」「木を植えた男」「おれはティラノサウルスだ」「からすのパンやさん」

絵本の役割

子供たちが本と仲良くなる最初のきっかけ。お母さんであったり読み聞かせのおばさんであったり、絵本を読んでもらうことから始まるのではないかと考える。読み聞かせの楽しい時間から本の面白さを知り、感性と創造力を育てるためにも子供たちにたくさんの本と出会ってほしい。